

平成28年熊本地震 災害支援対策の報告 ～熊本県臨床心理士会～



九州臨床心理学会第45回宮崎大会
大会企画シンポジウム H29.1.29

熊本県臨床心理士会

副会長 災害対策担当理事

古賀香代子

熊本地震の状況

熊本地震の状況(気象庁発表)4月30日13時現在

- 震度1以上観測～累計1,075回
- 震度6以上を観測した地震

日時	発生時刻	震源地	地震の規模 (マグニチュード)	最大震度
H28.4.14	21:26	熊本地方	6.5	7
H28.4.14	22:07	熊本地方	5.8	6 弱
H28.4.15	003	熊本地方	6.4	6 強
H28.4.16	1:25	熊本地方	7.3	7
H28.4.16	1:46	熊本地方	6.0	6 弱
H28.4.16	3:55	阿蘇地方	5.8	6 強
H28.4.16	9:48	熊本地方	5.4	6 弱

2016年 全国地震ランキング (震度1以上)

第1位 熊本県 3,766回

第2位 大分県 855回

第3位 鳥取県 459回

第4位 宮崎県 421回

第5位 福岡県 398回

第6位 鹿児島県 393回

第7位 福島県 373回

第8位 長崎県 360回

* 佐賀 13位(182回) 沖縄 21位(91回)

「揺れる日本列島」<http://jisin.jpn.org/index.html> より

熊本地震の特徴

- 余震の後に本震
もっとひどい揺れが来るかもしれない
- 震源地の移動
また揺れた、またくる？こない？
今度はどこ？
- 都市部広域のライフラインにダメージ
断水、停電、など→車中泊、脱出、渋滞
- 特定地域への被害集中

被害状況

平成29年1月17日現在発表分より

- 人的被害 死者合計181人、 重軽傷者**2,637人**
死者50名、関連死126人、6/16～25豪雨地震関連死 3人
- 全壊、半壊、一部破損 **181,205棟**

※ 平成28年4月30日

27市町村 避難所**423**ヶ所

避難者数 **25,894**人

地震発生！

私たちができることは？

- **被災地**臨床心理士会としての立場で考える
- 災害対策本部は何をするのか？

熊本県臨床心理士会の動き 1

- 4月14日 発災
- 4月17日 災害本部立ち上げ・災害対策会議(第1回)
- 4月23日 災害対策会議(第2回)
- 4月25日 日本臨床心理士会にご挨拶、今後のお願い
- 5月 1日 緊急支援研修会(第1回)
- 5月1日 九州ブロック災害対策会議(第1回)
- 5月 1日 災害対策会議(第3回)
- 5月8～9日 日本臨床心理士会事務局長来熊。視察・打合せ
- 5月15日 緊急支援研修会(第2回)

熊本県臨床心理士会の動き 2

- 5月16日 熊本市教委緊急支援SC(九州ブロック)活動開始
- 5月23日 熊本市教委緊急支援SC(全国)活動開始
- 6月5日 熊本県士会SCブロック会議
- 6月6日 熊本県教委緊急支援SC(九州ブロック)活動開始
- 8月 5～6日 九州ブロック緊急支援会議
- 9月26日 阿蘇教育事務所訪問
- 9月29日 上益城教育事務所訪問
- 10月6日 宇城教育事務所・八代教育事務所訪問
- 11月13日 SC連絡会

熊本県臨床心理士会理事会は毎月開催

SC連絡会

未就学児への支援

DPAT研修

災害対策本部の基本方針と初期計画

動きの原案(4月17日)

発災4月14日～4月いっぱい

基本動かない 今後の動きの準備、会長には県市への連絡
○ライフラインの確保優先、自分たちの身の安全確保優先、DMATが優先
○関係機関との連携つくりはじめ

5月連休明け～6月初め

○動ける組織つくり
○会員からの情報集や要請の確認

6月～

学校SC・病院・行政、それぞれの持ち場での被災者支援の状況の連絡、連携
学校等は他県からの応援要請(行政を通して)

組織案

熊本大震災災害対策本部長 熊本県臨床心理士会会長

災害対策担当理事・SV 熊本県臨床心理士会副会長

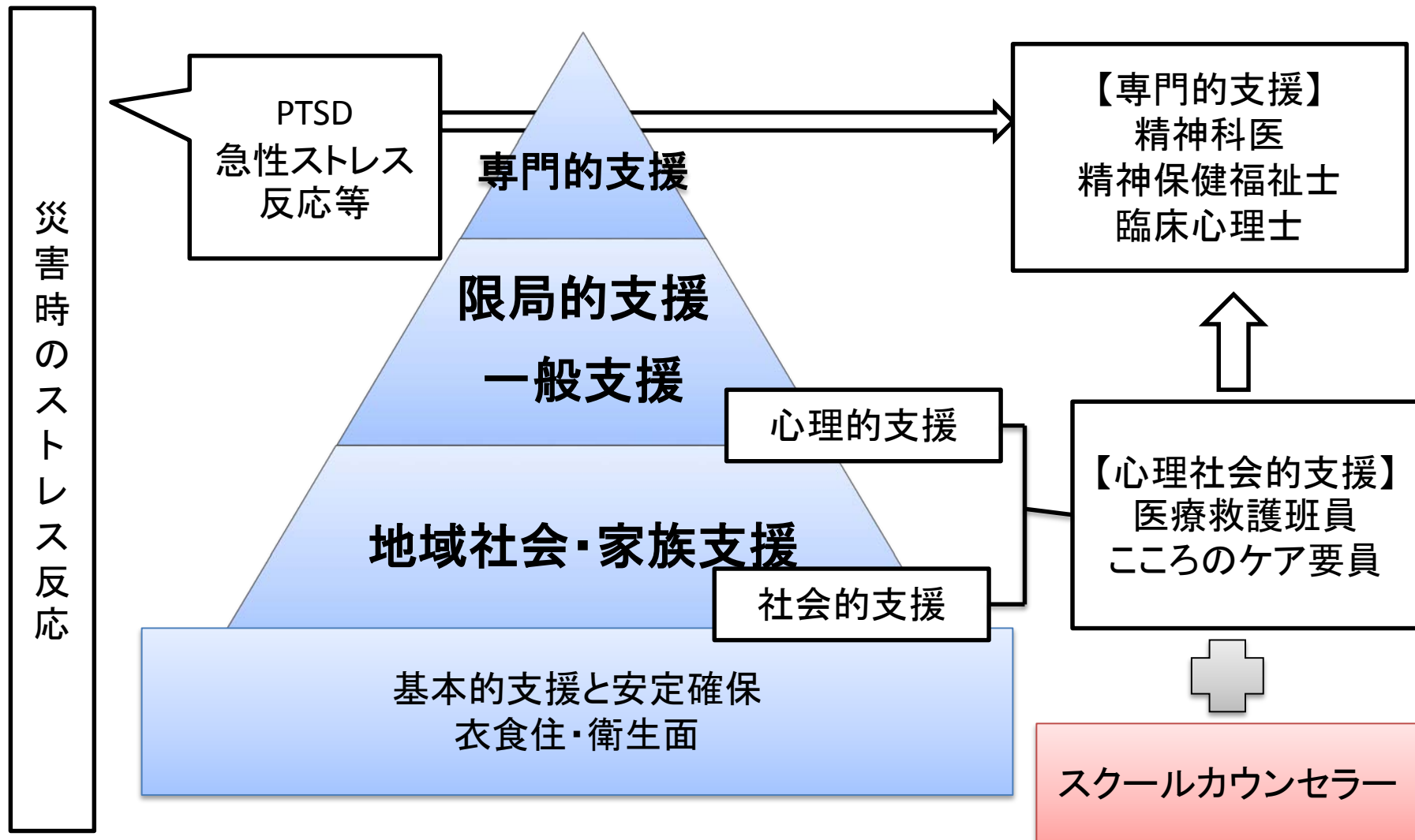
コーディネーター(窓口) 熊本県臨床心理士会被害者支援担当理事

本部事務局 熊本県臨床心理士会事務長

活動を始めるにあたって

- まずしなければならないのは**ニーズを探る**ことである。
- そのために現地に出向くことは大事だが、それ以外にも**様々なルートを通じて情報を集める**ことに心がける。
- この段階で意識する必要があるのは、最終的な支援の目的は被災者のためになることだが、**直接支援する対象は組織だという点**である

災害時のストレスとこころのケア



支援者カンファランスが重要

- 現地への訪問と同じくらい重要なのは、支援者側の地元で行う、**活動についてのカンファランス**である。
- ローテーションを組んで訪問する場合、この体験と情報の共有がなされることで、点である現地での活動に、**線としての連続性が生まれる。**

「災害時の心理学的支援における臨床的判断」(川畑直人 臨床心理学 16(3), 279-282, 2016-05)

精神衛生に欠かせない

- 現地派遣が行われたら、その報告をしてもらい、次の派遣計画を練る。報告は現地に赴いた人の精神衛生にとって欠かせないものであり、また、スタッフ間での体験と情報の共有にとって重要である。

「災害時の心理学的支援における臨床的判断」(川畑直人 臨床心理学 16(3), 279-282, 2016-05)

熊本地震への取組

被災からの時間経過による ニーズに合わせて活動する

- 専門的な支援スキルを持った臨床心理士の活動体制を整える
- 地域診断を常に行い、心理的支援を行うための仕組みを作る→SCブロック分け、メーリングリスト
- これにより、現場のニーズを汲み上げ、支援メンバーが情報を共有する。また、活動体制を微調整していく。

熊本県臨床心理士会SCブロック体制

SC体制イメージ図

● SCブロック体制

* 熊本地震発生を受け整備

設置目的

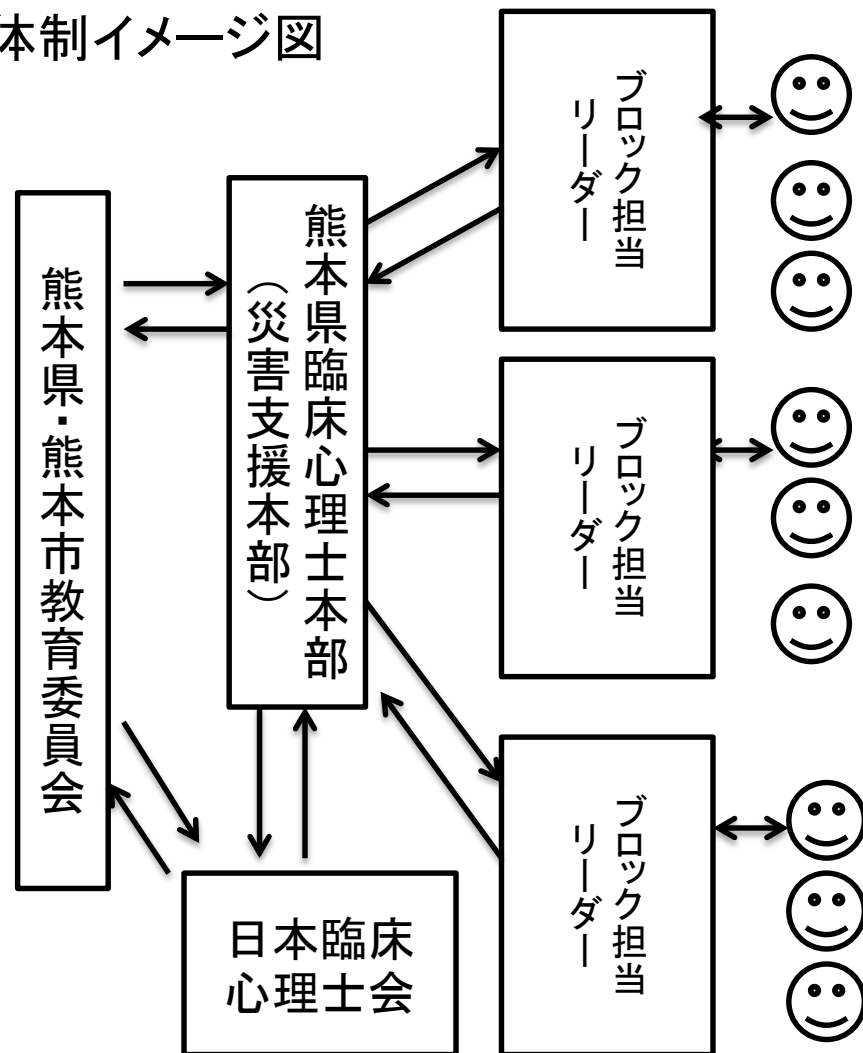
・学校現場の状況把握

→ニーズの把握と支援内容・量の把握

教育事務所単位でリーダーを置く

熊本市は任意でAB2ブロック

- ・リーダー会議の開催
- ・MLによる情報交換
- ・SC会議、研修会



緊急SC支援体制

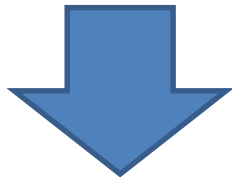
- 熊本市教育委員会
 - 熊本市小学校・中学校全校に派遣
 - 臨時の公務員としての身分保障
 - 災害支援に特化したSC活動
 - セミナーハウス方式(枠組みの意識付け)
 - * 毎日1時間の記録・報告会
 - ⇒ 支援目的の確認
 - ⇒ 情報共有と質の担保
- 熊本県教育委員会
 - 被害の大きい5圏域にチーム派遣
 - (主に九州・沖縄チーム)
 - 現在、教育事務所に配置

熊本地震災害対策の体制

- 九州ブロックの連携に支えられる
連絡会議開催
 - 顔の見える関係・信頼メーリングリストの活用
 - 即時に情報交換、相談
- 日本臨床心理士会のバックアップ
熊本市緊急支援SC体制整備
出発式等への参加

備えあれば・・・

日本臨床心理士会の災害対策研修会
過去の災害関連研修、DPAT、
災害対策本部立ち上げのシュミレーション
その他



熊本地震発災害以降、大きな支えとなる

発災以来数々のご支援を頂き、
ありがとうございました。

今後もどうぞよろしく申し上げます。

熊本県臨床心理士会一同